

## パフォーマンスアートの世界

授業科目名	パフォーマンスアートの世界	単位数 2 単位
英語標記	The World of Performing Arts	
授業コード	第 1 学期 360103 第 2 学期 360204	
受講人数	40 人（毎年、1 学期の希望者が多く、2 学期が少ないので、できれば 2 学期に受講してください。ワークショップ形式なので、人数が少ない方が充実した授業を受けられます）	
担当教員	平田オリザ、蓮行	
対象	全研究科大学院生、全学部学生、社会人（5 名まで）	
開講時間等	第 1 学期＝木曜 3 限（4 月 15 日～）、第 2 学期＝木曜 3 限（10 月 7 日～）	
開講場所	豊中キャンパス：オレンジショップ（基礎工学部 I 棟 1 階）	
キーワード	演劇、ダンス、芸術、アートマネジメント、文化政策	
授業の目的	1. 現代芸術、特に舞台芸術（パフォーマンスアート）に対する、基礎的な知識と批評性を身につける。 2. 現代芸術が社会において果たす役割を理解する。 3. 芸術が、受講者それぞれの専門領域において、どのように影響を及ぼすかを考察し、今後の学習につなげる。	
講義内容	この講座では、実際に身体を動かすワークショップ形式の授業を織り交ぜながら、現代芸術の本質についての理解を深めていきたいと考えています。 簡単なグループ創作までを行います。舞台の経験は必要ありません 1. オリエンテーション・コミュニケーションゲーム 2. 演劇ワークショップ I（俳優の仕事／現代演劇とは何か） 3. 演劇ワークショップ II（演出家の仕事） 4. 演劇ワークショップ III 5-7. 演劇創作体験 I, II, III 8. 演劇ワークショップ IV 演劇の構造 9. 演劇ワークショップ V グループ創作 10. 演劇創作体験 IV 11. 文化政策とは何か 12-13. プロデューサーの仕事 I, II 14. アートマネジメントとは何か	
教科書	特になし。適宜資料を配布する。	
参考書	『演劇入門』（講談社現代新書）『芸術立国論』（集英社新書）平田オリザ	
成績評価	1. 芸術鑑賞の際に提出を要求されるレポート 1 回（30％） 1200 字程度 課題の鑑賞と、自由鑑賞を併せて、学期中に最低 3 回の生の舞台を観劇してもらいます。できるだけ、割引措置などを執って、学生の負担が少ないようにします。ここで提出を要求されるレポートは、作品に対する批評性を持ったものが要求されます。 2. 授業内容に関するレポート 1 回（30％） 1200 字程度 授業で学んだことを、できるかぎり自分の専門領域に引きつけて書いてください。 ※レポートは A4 版でワープロ打ちのこと。期日は授業内で発表します。 3. 出席（20％） 4. 授業への参加（20％） 積極的な発言、質問、提案などを評価します。	

### この講座は、

この講座は、大阪大学の全学生を対象に、日頃なじみの薄い現代演劇やコンテンポラリーダンスを通じて、人間と社会を見つめる新しい視点を獲得してもらうためのものです。誰にでも親しめる内容の授業ですので、これまでの経験などを気にせず、気軽に参加してください。

### 芸術は「たしなみ」です

芸術は限られた人だけの楽しみや、ストレス発散のためだけの道具ではありません。芸術は、現代社会にとって、なくてはならない社会的機能であり、その役割はさらに強くなっています。また、現代社会を生きる人々にとって、すぐれた芸術を享受することは当然の権利であると同時に、社会生活を営むための基礎的教養＝たしなみでもあります。

### 鑑賞から参加、そして社会へ

さらに、現代芸術は、ただ鑑賞するだけではなく、そこに参加し体験することに強い意義があります。本講座は、実践と理論を通じて、現代パフォーマンスアートの全体像を理解し、当該分野における基礎的教養を身につけることを目的とします。  
また芸術と社会のつながり、社会における芸術の役割を考え、アートマネジメントに関する基礎的な知識を身につけることも目的となります。

### さらに学びたい人は、

授業以外に、多くの芸術鑑賞機会を提供します。割引などを設定して、できるかぎり受講者の負担がないようにしたいと思います。

本年度の講座の様子を見て、次年度以降、上級者クラスを開設する予定です。

※前後期とも、ほぼ同内容の授業を行います。

※実際の授業は、授業担当者のスケジュールによって前後します。

※演劇ワークショップは 1 コマ内に、実技と座学を並行して行います。

※必要に応じて、ゲスト講師を招いたり、鑑賞の機会を設けます。